

農業団体

粗生産 史上2番目134億円 生乳は過去最高額 J A中札内村 2019年4月11日

J A中札内村（山本勝博組合長）の第72回通常総会が10日、村文化創造センターで開かれた。2018年度の農業粗生産高は134億7215万円で前年度に次ぐ史上2番目となったことが報告された。

粗生産高は前年比4億1113万円(3.0%)の減少。畑作4品は天候不順などの影響で収量は前年を下回ったが、ビートは春耕時の風害などがなく過去最高の生産高に。畜産は生乳生産量は4万2802トンと前年を上回り、プール乳価の値上げもあり、生産高は過去最高額となった。総会には委任状を含めて組合員190人が出席。議案9

件を可決した。今年度事業では、枝豆ハーベスター1台を購入する他、食品安全の国際規格「FSSC22000」を取得予定。同日午後の理事会で役員改選を行い、山本組合長(77)、松島孝幸専務理事(68)、林浩幸常務理事(59)らを再任した。任期は3年間。総会に先立ち、元農水相の西川公也内閣官房参与が講演した。

粗生産額 1割減58億円 天候不順など影響 J A十勝池田町 2019年4月20日

J A十勝池田町（鈴木雅博組合長、組合員246人）の第30回通常総会が17日、町西部地域コミュニティセンターで開かれた。2018年度の農畜産物粗生産額は前年度比12.7%減の58億600万円で、共済金や水田活用直接支払い交付金を加えた総額は10.1%減の63億7200万円だった。また、J A十勝高島（八木英光組合長）と21年3月1日に向けて合併協議を推進することを確認した。

書面と委任状を含めて234人が出席。鈴木組合長は「新たな合併目標に向けて協力を」とあいさつした。引き続き、来賓の勝井勝丸町長らが祝辞を述べた。昨年度の農産部門では畑作が17.4%減の35億9600万円で、6月以降の日照不足や長雨、低温の影響で作物の生育

が停滞し、小麦、豆類、青果物の収量低下などが影響した。酪農畜産部門は、乳価は上がったが生乳出荷量は減少し、肉牛などの個体販売が若干値下がりした影響もあり、2.1%減の22億600万円だった。当期剰余金は2億200万円。出資配当金は1.5%とした。

販売額6%減の84億円 多雨低温で畑作苦戦 J Aあしよろ 2019年4月24日

J Aあしよろ（新津賀庸組合長、224人）の2019年度通常総会が22日、町民センターで開かれた。18年度の農畜産販売額は前年度比6%減の84億3000万円。補助金、奨励金を含めた農業収入合計では3.7%減の98億7000万円。多雨、低温などの気象条件が畑作に影響した。

冒頭、新津組合長は「より地域に必要とされる組織、スピード感を持って変えていく」とあいさつした。畑作の販売高（昨年12月末、組合勘定精算）は19億3000万円で、前年と比べて13.8%減。小麦や豆類、秋作物が全般的に減収、品質低下も余儀なくされた。乳牛・和牛を含めた畜産販売は3.4%減の65億円。前年乳量を確保できたが、高齢化などによる規模縮小、和牛

の更新が進まなかった。当期未処分剰余金は1億3184万円、組合員配当は4500万円を計上した。専務理事の林直樹氏が退任し、J A参事の帯谷悟氏が理事に選任された。その後の理事会では、専務制から常務制を採用することが決まり、常務理事に印牧清理事が互選された。